

志教育の視点	☑かかわる ・ ☑もとめる ・ ☑はたす
--------	----------------------

活動名	甲斐ある人といわれたいむ
教科・領域等	総合的な探究の時間
活動学年等	全年次
ねらい	総合的な探究の時間を通して、校是「甲斐ある人と言はれなむ」を体現できる人材の育成を目指す。甲斐ある人とは、「真心をもって 世のため人のために 尽くす人になるように 日々努力する」ことである。

【実践内容】

[志教育の視点]

教科等横断的に学習に取り組み、自己の在り方生き方について考え、主体的に取り組む態度を育て、論理的に表現する活動を行い、社会に貢献できるような人間となる。

[活動内容]

1 1年次 SDGs研究「自己発見」活動

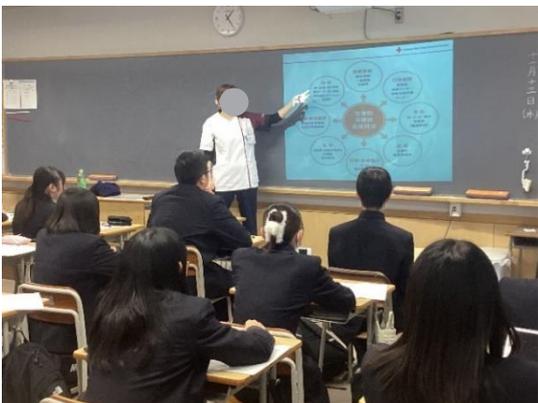
(1) 個人探究

生徒が興味関心のある記事をいくつか調べ、その内容と関連した課題を見つける活動をしました。その後、グループを作り、自分の調べたことを共有しました。この活動を通して、自分の興味・関心を新しく見つけた生徒や再発見した生徒が多く見受けられました。



(2) 社会人講話

地元で活躍されている方や本校卒業生を講師として招き、社会人講話を実施しました。様々な分野で活躍されている講師の方の貴重なお話を聞き、生徒たちが自分の将来や進路を深く考える機会になりました。



(3) 自己発見活動スピーチ

1年間のSDGs研究を通して経験したことを一般し、この一般化した学びを「教科の学び」、「次なる探究」、「進

路・キャリア」という3つの視点を意識して、「何を」「どれくらい」「どのように」取り組むのか具体的に考え、その決意を述べました。



2 1年次 在り方・生き方研究SDGs探究活動

(1) SDGs講演会

石巻で活躍されているNPO団体の方々をお招きし、団体の方々から、「NPO設立のきっかけ」、「実際の取り組み」、「SDGs17の目標との関係」、「高校生に考えてほしいこと、期待すること」などを話してもらい、生徒たちは自分の身近な課題が理解でき、大いに刺激を受けていました。



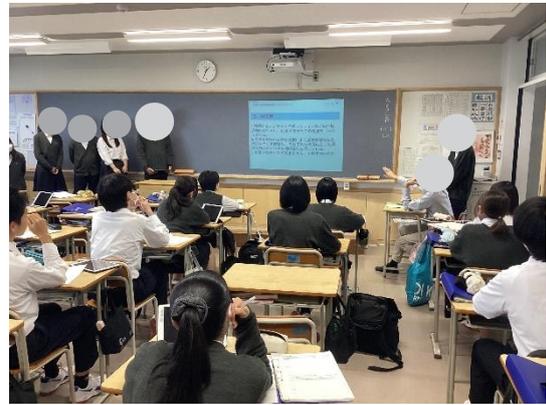
(2) フィールドワーク

NPO 法人や市役所などにお話を伺いに行ったり、海岸で実際にゴミ拾いをしてごみの種類を調べてみたり、今までの探究活動で見つけた課題について調査しました。実際に課題解決に向けて動いている方々の話を聞くことで考えが深まり、新たな発想が生まれるなど、有意義な時間になったようでした。



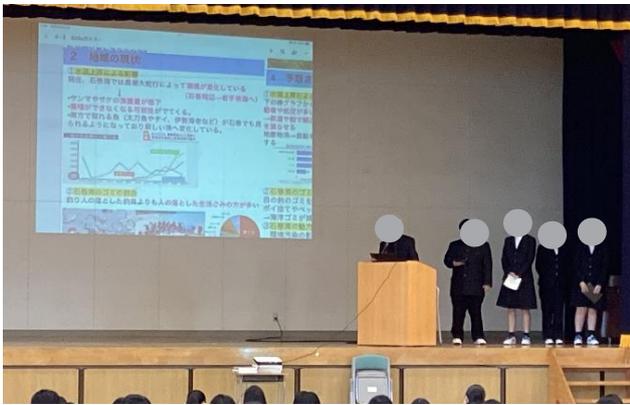
(3) 中間発表

現段階までの探究活動をポスターにまとめて発表し、NPO 団体の方々にご助言をいただきました。他のグループの発表を聞くことで、発表の仕方やポスターを見やすくするための工夫について検討し、また、NPO 団体の方々と話をすることで考えが深まった様子でした。



(4) 全体発表

1年次生は、これまで地域の課題に取り組んでいる団体から話を聞き、自分たちなりの地域の課題を見つけたり、魅力を見つけたりして、探究活動を行ってきました。その成果として、調査結果やその考察、結論について、昨年度SDG s探究活動を行った2年次生、お世話になった団体、石巻専修大学の先生、石巻市NPO支援オフィスの方、保護者の皆様に発表しました。また気仙沼高校、石巻商業高校、古川黎明高校、石巻高校の生徒にも参加していただき、相互の議論や交流を行い、大いに刺激を受けたり、新たな気づきを得たりしていました。



3 2年次 分野別課題研究

(1) 研究を知る

石巻専修大学、宮城学院女子大学、東北福祉大学より講師の先生方を招き、「研究とは何か」講演会を実施しました。はじめに、石巻専修大学の三木先生から、「研究事始め」と題して、研究を始めるにあたって必要なことなどを説明していただきました。その後、各教室に分かれ、講師の先生方が研究されている分野について具体的なお話を伺いました。



(2) テーマを考える

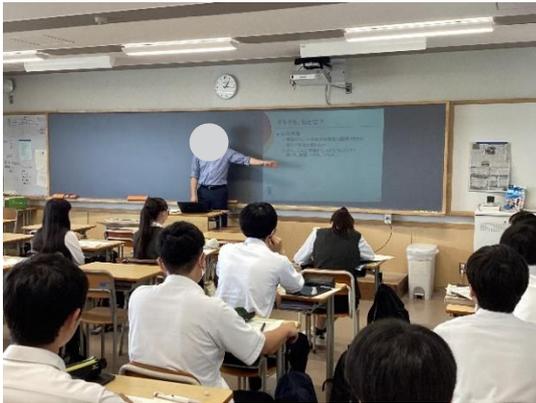
グループ研究のテーマ決めを行いました。興味のあるテーマに関するキーワードを挙げ、5W1Hを用いて問いを立てていきます。

個人探究のテーマを引き継ぐ人、新たなテーマを立てる人、様々ですが、進路やキャリアにつながるテーマ設定を行っている生徒の姿が見られました。



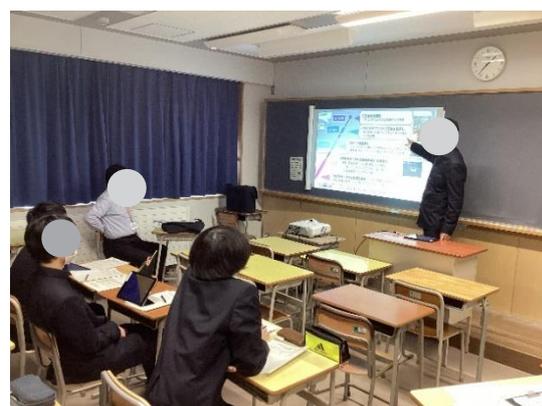
(3) 大学教授出前講義

石巻専修大学、東北福祉大学、宮城学院女子大学から12名の先生をお招きしました。5校時は大学の先生の講義を体験し、6校時は研究グループごとにテーマを発表してアドバイスをいただきました。生徒たちは、興味のある分野の講義に熱心に耳を傾け、高校とは異なる大学での学びの一端に触れることができました。



(4) 中間発表

石巻専修大学、東北福祉大学、宮城学院女子大学から12名の先生方をお招きし、「分野別課題研究中間発表」を行いました。生徒たちは、7月に大学の先生からアドバイスをいただいて深化させた「研究テーマ」、「研究動機」、「仮説」、「検証方法」等を発表しました。大学の先生からは、改善された点や今後の課題など、丁寧にご指導いただきました。中間発表を終えた生徒たちの表情は、今後の研究への希望に満ちたものでした。



(5) ポスターセッション

2月5日、本校体育館で「分野別課題研究ポスター発表会」を行いました。発表する2年次生と発表を聞く1年次生が集まり、多賀城高校、石巻北高校、古川黎明高校（ポスター掲示）の生徒にも参加してもらいました。さらに、石巻専修大学、東北福祉大学、宮城学院女子大学の先生方にご来校いただきました。

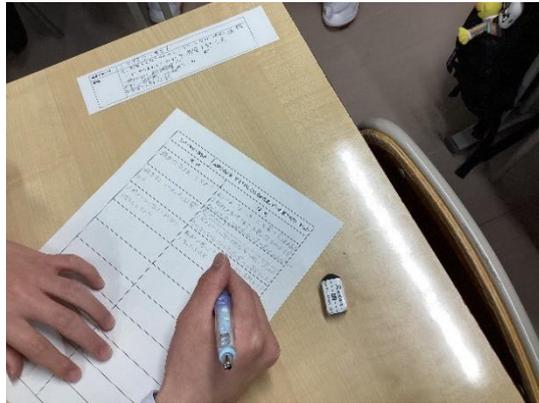
発表では、リハーサルでの反省を生かし、聞き手に伝える発表を目指すべく、問いかけやクイズを行ったり、実演を行い表情豊かに説明したりと、それぞれに工夫が見られました。また、発表を通じた他校との交流もありました。多賀城高校の発表では災害科学科ならではの視点があり、石巻北高校の発表では独自の取り組みが生き生きと表現されていました。古川黎明高校のポスターは、実験と分析の成果が分かりやすく説明されていました。大学の先生方には、たくさんの発表を熱心に回っていただき、貴重なアドバイスをいただきました。



3 3年次 自己実現研究

(1) 論文作成

2年次の1年間にわたる課題研究の成果を論文として、「研究テーマ」、「研究動機」、「仮説」、「検証方法」などについてまとめ、研究集録を完成することができました。



(2) グループディスカッション

「発展的対話力」と「論理的思考力」を高めていくことを目的としてディベートとディスカッションを行いました。

ディベートのテーマは「日本の死刑制度は廃止すべきか」。各クラス10チームに分かれ、同時進行で5試合を行いました。内容としては、普段の会話ではなかなか話題に取り上げることは少ないと思いますが、どのクラスも活発なディベートが繰り広げられました。



グループディスカッションのテーマは「10年後に流行っているものは?」。テーマについて自分の考えやアイデアを付箋に書き出し、記録用紙に同じ内容をまとめて貼り、グループ化してタイトルをつけたり、グループの関係性を線や矢印でつないだりして意見やアイデアを整理していきました。



[地域とともに自分・未来を見つめる志を育む]

本校では、「好文好武」を標榜し、勉学と部活動、さらには行事など様々な活動に積極的に取り組ませている。また地域活動への積極的な参加、地域人材の活用した社会人講話、地元企業者やNPO 法人によるSDGs 講演会やフィールドワーク、石巻専修大学等と連携した出前授業などを開催したりすることを通して、地域とともに将来の地域の担い手となる人材の育成を図っている。